

社会福祉法人 聖マリア会

平成 29 年度 事業報告書

事業の実施状況

社会福祉を取り巻く環境が変化する中、社会福祉法人の在り方が問われている社会福祉法人制度の見直しがなされ「社会福祉法等の一部を改正する法律」（平成 28 年 3 月成立）により、平成 29 年度より社会福祉法人制度改革が本格施行されました。具体的には、経営組織のガバナンスの強化、経営情報の開示、財務規律の強化、地域における公益的な取り組みを実施する責務等大きく変更され社会福祉法人が公益性の高い非営利法人として地域福祉の中心的な担い手としての役割を果たし多様化・複雑化する福祉ニーズを充足するため積極的に取り組み地域社会に貢献することが求められています。

また、平成 29 年度は介護保険制度改革（介護保険法は 3 年ごとに改正）が行われました。介護費用が急速に増大している介護保険制度の状況を踏まえ、具体的には地域包括ケアシステムの深化・推進という観点から「医療・介護の連携」「地域共生社会の実現に向けた取り組み」の推進等を行うとともに、介護保険制度の持続可能性の観点から「利用者 3 割負担の導入」「介護納付金への総報酬割の導入」を行うことです。

このような制度改革の趣旨を踏まえ、平成 30 年度からの介護報酬改定は、2025 年に向けて地域包括ケアシステムの推進が求められる中での 6 年に一度の診療報酬と同時改定となり、全体でプラス 0.54%と 6 年ぶりのプラス改定となりましたが、介護施設をめぐる経営環境は今後ますます厳しくなると予想されます。

このような中、当法人の平成 29 年度決算は、各事業の稼働率の低さが事業活動収益に大きく影響を与え、会計全体の当期資金収支差額は約 940 万円の赤字決算になっています。

また、築後 19 年を経過する建物・設備の修繕等に約 700 万円、固定資産等の取得に約 470 万円投じ環境の整備に取り組みました。

福祉人材の確保が今後一層厳しさを増すことが予測されていますが、計画的な採用を進めるとともに、人材の育成と定着に向けて、昨年に引き続き、職員の人間性と職場対応力を高めることを目的とした研修（1 日 2 時間、12 回実施、受講者 17 名）を実施しサービスの質の向上に努めました。

こうした厳しい経営環境ではありますが、利用者サービスの一層の向上を図るため万全を期して事業に取り組んでまいりましたので、その概要を次のとおり報告いたします。

1. 法人の概要

1. 法人名 社会福祉法人 聖マリア会
2. 所在地 愛媛県今治市上徳甲110番地1
3. 法人の事業
 - (1) 第一種社会福祉事業
 - (イ) 特別養護老人ホームの経営
 - (ロ) 軽費老人ホームの経営
 - (2) 第二種社会福祉事業
 - (イ) 老人デイサービス事業の経営
 - (ロ) 老人短期入所事業の経営
 - (3) 公益事業
 - (イ) 居宅介護支援事業
 - (ロ) 要介護認定申請にかかる訪問調査の受託

2. 役員等の状況

1. 構成（平成30年3月31日現在）

理事	定数	6名以上11名以内（現員10名）
監事	定数	2名以内（現員2名）
評議員	定数	7名以上12名以内（現員6名）

※ただし、平成32年3月31日までは4名以上

3. 平成29年度理事会開催状況

開催年月日 出席人数	議案	
平成29年06月07日 理事 10名 監事 02名	議案	第1号 社会福祉法人聖マリア会平成28年度事業報告について 第2号 社会福祉法人聖マリア会平成28年度決算について 第3号 社会福祉法人聖マリア会役員及び評議員の報酬等に関する規程(案)の改定について 第4号 社会福祉法人聖マリア会定款施行細則の改定について 第5号 社会福祉法人聖マリア会経理規程の改正について 第6号 社会福祉法人聖マリア会次期役員候補者の推薦について 第7号 社会福祉法人聖マリア会定時評議員会の開催について
	報告	専決事項報告
平成29年06月22日 理事 10名 監事 02名	議案	第1号 社会福祉法人聖マリア会理事長の選任について 第2号 社会福祉法人聖マリア会育児休業等に関する規則の改定について 第3号 社会福祉法人聖マリア会介護休業等に関する規則の改定について
	報告	専決事項報告
平成30年03月26日 理事 10名 監事 02名	議案	第1号 社会福祉法人聖マリア会平成29年度補正予算について 第2号 社会福祉法人聖マリア会平成30年度事業計画について 第3号 社会福祉法人聖マリア会平成30年度予算について 第4号 社会福祉法人聖マリア会職員の育児休業等に関する規則の改正について 第5号 社会福祉法人聖マリア会就業規則の一部改正について 第6号 社会福祉法人聖マリア会嘱託職員就業規則の一部改正について
	報告	専決事項報告

4. 平成 29 年度評議員会開催状況

開催年月日 出席人数	議案	
平成 29 年 06 月 22 日 評議員 6 名 出席理事 1 名	議案	第 1 号 社会福祉法人聖マリア会平成 28 年度事業報告について 第 2 号 社会福祉法人聖マリア会平成 28 年度決算について 第 3 号 社会福祉法人聖マリア会役員及び評議員の報酬等に関する規程(案)の改定について 第 4 号 社会福祉法人聖マリア会理事及び監事の選任について

5. 特別養護老人ホームみどりの郷

特別養護老人ホームみどりの郷の平成 29 年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。(詳細な数字は末尾に表示)

1. 平成 29 年度稼働目標 定員 56 名に対して、稼働率 95%

【実績】

- ・稼働率 95%の目標に対して、91.5%と達成できなかった。

2. 平成 29 年度重点項目

利用者が尊厳を保ち、安心して暮らし続けられるよう自立支援サービスを行い、個別ケアを推進します。

【実績】

- ・2年目を迎えた接遇委員会を軌道にのせ、接遇に対する意識改革を全職員に浸透させた。
- ・入所者の尊厳を保ち自立した生活を送ることができるよう、トイレでの排泄を継続した。

3. 主な事業

① 利用者の意思や意欲に沿った、生きがいのある生活を支援する

【実績】

- ・利用者の希望を叶える外出や活動を行い、生きがいのある生活を支援した。
(クラブ活動(生け花)、カラオケ、遠足(バラ公園・市民の森・イオンモール)、中庭バーベキュー、野菜作り、郷土料理作り、お茶会)

② 温かく、衛生的でおいしい食事の提供

【実績】

- ・飲み込む機能が低下した入所者にはソフト食を提供し、安全で美味しい食事を提供した。
- ・定期的にホットプレートを使い、目で見ても楽しめる食事の機会を作った。
- ・郷土料理作りやおやつ作りを通して、入所者に作って食べる楽しみを提供した。
- ・朝食後に美味しいコーヒーを飲めるようにしたり、移動パン販売で選ぶ楽しみをつくったりした。
- ・歯科医師、歯科衛生士と連携し適切な口腔ケアに努めた。

③ 褥瘡をつくらない援助

【実績】

- ・持ち上げない介護を現場に取り入れ、入所者にも職員にも負担の少ない介護を実践した。
- ・個人に適した車イスを選定し、補助用品や体位交換クッションを準備し安楽姿勢確保に努めた。
- ・スキントラブルの発生を抑えるため、より入所者に安全な排泄用品を準備し排泄方法を見直した。

④ 介護事故の防止に取り組み、早期対応と再発の防止に努める

【実績】

- ・事故防止委員がデータを集め、月々情報を発信し重大事故発生リスクを軽減した。
- ・ご意見箱を見やすい場所に移動し、入所者の生活に関してご意見を頂きやすい環境を整えた。また頂いたご意見には、家族の信頼を失わないよう適切な対応を行った。

⑤ 協力病院と連携し緊急時の対応に万全を期す

【実績】

- ・看護職員又は介護職員が病院及び主治医と適切に連携し、入所者の緊急対応ができた。
- ・緊急対応が遅れないようPHSを活用し、より迅速な対応ができる環境を整えた。

⑥ 感染対策および食中毒の予防に万全を期す

【実績】

- ・感染対策の教育、指導を継続して行い、菌、ウイルスをもちこまない対応を周知した。
- ・感染症発生時は初期対応を的確、適切に行い拡大を防いだ。

⑦ 高齢者虐待防止と身体拘束をしない生活援助

【実績】

- ・特養会や接遇委員会で虐待を取り上げ、実際の現場で虐待や不適切ケアにならない介護の実践を行った。

⑧ 機能訓練を充実させ、身体機能の維持回復に努める

【実績】

- ・日常生活の中でトイレでの排泄や座位訓練を中心に行った。
- ・足首強化のリハビリ機器や足浴機器などを使用し機能維持に努めた。

⑨ 災害や防犯にも対応できる安全対策及び環境整備に努める

【実績】

- ・監視カメラで迅速に事故の正確な検証を行い、再発予防対策ができた。また監視カメラでの不審者対策など、利用者及び職員の施設生活の安全性が強化された。

(1) 定員 56名 平成30年3月31日現在

個室 12、4人部屋 11

(2) 入所者 55名 男性 15名

女性 40名

(3) 入所者年齢

	69歳以下	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
男性	1	5	8	1	0	15
女性	1	5	19	15	0	40
計	2	10	27	16	0	55

	最低年齢	最高年齢	平均年齢
男性	64歳	90歳	80.3歳
女性	65歳	99歳	86.3歳
計	64歳	99歳	84.7歳

(4) 年度別利用状況

年度	日数	延利用日数	1日当人員	利用率	備考
29	365	18,709	51.26	91.5	
28	365	18,111	49.62	88.6	
27	366	18,802	51.37	91.7	

(5) 入退所状況（平成29年4月1日～30年3月31日）

- 入所者 18名 入所前居所（自宅4名、老健11名、病院2名、有料老人ホーム1名、）
- 退所者 17名 退所理由（死亡9名、長期入院8名）

(6) 現入所者の入所年度

16～18年度	19～21年度	22～24年度	25～27年度	28年度	29年度	計
2名	4名	6名	17名	9名	17名	55名

(7) 現入所者の平均在所日数

29年度 1,152日（3年01月）

28年度 1,170日（3年01月）

27年度 1,296日（3年06月）

(8) 入所者の年間平均介護度

29年度 4.25

28年度 4.30

27年度 4.28

(9) 特例措置による入所状況 なし

(10) 入所待機者 319名（他施設との重複含む）

(11) 入所検討委員会開催

年4回（4月、7月、10月、1月）

6. 短期入所（ショートステイ）事業

ショートステイみどりの郷の平成29年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。（詳細な数字は末尾に表示）

1. 平成29年度稼働目標 定員13名に対して、稼働率50%

【実績】

- ・稼働率50%の目標に対して、33.2%と達成できなかった。
- ・利用者の希望の日程や心身状況に適する居室の調整が難しく、円滑な稼働ができなかった。

2. 平成29年度重点項目

利用者・家族の方が安心して利用できるよう、意思や意向に沿った柔軟なサービスを提供するとともに、家族介護の負担軽減に努めます。

【実績】

- ・初回アセスメントだけでなく利用毎に心身の変化に応じて援助を進めていくことにより、安全面と満足度への配慮を行った。
- ・可能な限り柔軟に、ご要望に応じて送迎時間や援助の対応を行った。
- ・接遇面や安全、美味しい食事の提供に対する意識を全職員で共有することができた。

3. 主な事業

① 他機関及び家族と情報を共有し利用者の心身の状態に応じた日常生活の援助を行う

【実績】

- ・他機関とは担当者会議などで情報共有し、家族とは個別処遇状況表の活用に加え、送迎時の口頭での状況報告や電話連絡を心掛けた。

② 認知症ケアを充実強化し、尊厳のある援助を行う

【実績】

- ・日常生活の見守りと観察、健康管理のケアを行い、利用者にあったかかわりのケアを心掛けた。
- ・ショートステイ委員会メンバーとの情報共有や他職員への周知に努めた。

③ 介護事故防止の取り組みを強化する

【実績】

- ・特養と一体的に運営しており同様の取り組みを行った。

④ 感染症対策及び食中毒の予防に万全を期す

【実績】

- ・特養と一体的に運営しており同様の取り組みを行った。

⑤ 在宅生活を継続するための機能訓練を行う

【実績】

- ・短期間で機能低下する意味を理解し、個人の機能に応じた援助の周知に努めた。
- ・個別に手すりや平行棒を活用した歩行訓練やマッサージ、足浴を行い、日常生活での機能活用の機会を多く提供した。
- ・要望があれば全職員と相談協力しながらできる限りの援助を行った。

(1) 定員 13名（予防型含む）

(2) 年度別利用状況

年度	日数	実利用人員	延利用日数	1日当人員	利用率	備考
29	365	291 (1)	1,576 (2)	4.32	33.2	1人当平均利用日数 5.42日
28	365	330 (3)	1,750 (11)	4.79	36.9	5.30日
27	366	406 (3)	2,093 (10)	5.72	44.0	5.15日

() 内は介護予防分を再掲

(3) 利用者の年間平均介護度

29年度 3.34

28年度 3.43

27年度 3.59

7. 地域密着型通所介護（デイサービス）事業

デイサービスセンターみどりの郷（地域密着型）の平成 29 年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。（詳細な数字は末尾に表示）

1. 平成 29 年度稼働目標 定員 18 名に対して、稼働率 70%

【実績】

- ・稼働率 70%の目標に対して、65.9%と達成できなかった。
- ・利用者のうち 12 名が施設入所、3 名が他界された。新規利用者の受け入れが 10 名で、前年度と比較して延べ利用者数は 178 名減少した。

2. 平成 29 年度重点項目

利用者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、利用者の声を基に定期的にプログラム内容を見直し、新たなプログラムの企画を行います。身体機能の向上・筋力強化・バランスアップを目的としたトレーニングプログラムの実施により、生活意欲の向上に取り組み、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続できるよう利用者の在宅生活を支援します。

他事業所との連携やサービス内容のPRを強化して、より一層の利用者確保に努めます。

【実績】

- ・体験利用ができることを各居宅介護支援事業所のケアマネージャーにPRし、利用に繋がられるようにしている。またデイみどりの郷だよりも活用して、デイでの活動内容をアピールしている。

3. 主な事業

① 利用者個人の有する能力と可能性を引き出すことを目標とする

【実績】

- ・レクリエーションを通じて、利用者の興味を持てる作業療法などを探索した。

② 利用者に喜んでいただけるレクリエーション活動や施設外活動の実施

【実績】

- ・新たに個別又は少人数の外出レクリエーションを実施した。

③ 施設における衛生管理と感染症予防対策の徹底

【実績】

- ・感染症発生時期には早めに対応策を実施したため、平成 29 年度におけるデイ利用者のインフルエンザ感染者は 2 名であった。

④ 認知症予防のためのプログラムの実施

【実績】

- ・脳トレ（計算問題・間違い探し・パズルなど）を実施した。

⑤ 楽しみながら食事できるための食事内容の改善・行事食の実施

【実績】

- ・毎月2回の行事食（バイキング食とホットプレートを使った料理など）を実施した。

⑥ 利用者の心身の状況に応じた個別の運動器機能向上訓練実施（介護予防）

【実績】

- ・個別に設定した体操や3か月に1度の体力測定などを実施した。

8. 認知症対応型通所介護（デイサービス）事業

デイサービスセンターみどりの郷（認知症対応型）の平成29年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。（詳細な数字は末尾に表示）

1. 平成29年度稼働目標 定員12名に対して、稼働率60%

【実績】

- ・稼働率60%の目標に対し、40.6%と達成できなかった。
- ・重度認知症利用者の施設入所や小規模多機能への移行に対し、新規利用者の獲得が少なかった。

2. 平成29年度重点項目

認知症を抱えている利用者が、可能な限り住み慣れた地域で日常生活を営むことができるよう必要な支援を効果的にを行います。

また地域や他事業所との連携を強化して利用者確保に努めます。

【実績】

- ・住み慣れた暮らしの継続のため自宅・デイ・ショートステイなど他事業所と連携して連結性のあるケアを行えるよう努めた。しかし重度者に対しては介護負担も大きく在宅生活が困難になるケースが多く、利用者確保は達成できなかった。

3. 主な事業

① 利用者の尊厳を守るケアの実施

【実績】

- ・接遇マナーを職員全体が周知徹底し、声掛けや介助時動作などあらゆる面で利用者の尊厳を大切にするよう取組み、概ね実施できた。

② 利用者が安心して過ごせるような環境及びケアの提供

【実績】

- ・認知症の利用者は不安感や環境の変化、体調面などの表現が難しいことを踏まえて、傾聴や様子観察し、その時々に対応を行うことで安心して過ごせるよう努めた。

③ 各利用者の立場に立った希望に沿える生活を支援する

【実績】

- ・本人の思いを実現できるようアセスメントを3か月に1回行い、その都度本人の希望に沿った利用ができるよう心掛けケアを行った。

④ 施設内における衛生管理の徹底・感染症の予防

【実績】

- ・施設内の清掃、介助時の手袋着用、手指消毒や手洗いの徹底に努めた。
- ・利用前の自宅での検温のお願いやバイタルチェックの徹底などを行い感染症の予防に努めた。

⑤ 家族や他サービス事業所との連携を強化し、在宅生活の維持を支援する

【実績】

- ・在宅生活が継続できるよう他事業所との情報共有や家族との相談や報告を増やし、連携を強化することに努めた。

⑥ 利用者が、自主的に行動できるような働きかけを心がけて支援する

【実績】

- ・利用者一人ひとりが力を発揮できることに多く取組み、やりがいを感じてもらえるよう職員間でも徹底し得意なことを増やせるように努めた。

- (1) 定員
- ア. 地域密着型 18名
 - イ. 介護予防・通所型 地域密着型の定員内
 - ウ. いきいき 地域密着型の定員内
 - エ. 認知症対応型 12名

(2) 営業日・サービス提供時間

- 1週間の営業日数 5日（月～金曜日）
- 1日のサービス提供時間
 - ア. 地域密着型 5～7時間
 - イ. 認知症対応型 7～9時間

(3) 年度別利用状況

区分 年度	(日) 開所日数	地域密着型		介護予防・通所型		認知症型		計		(人) 1日平均	(%) 利用率
		実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員		
29年度	255	237	2,184	134	839	144	1,242	515	4,265	16.7	55.8
28年度	256	254	2,386	134	815	141	1,238	529	4,439	17.3	57.8
27年度	258	206	2,092	119	688	164	1,447	489	4,227	16.3	51.4

※ いきいきデイ 利用者なし（26年～29年）

(4) 利用者の年間平均介護度

区分	地域密着型	認知症対応型
29年度	1.66	3.37
28年度	1.63	3.58
27年度	1.95	3.88

(5) 配食サービス事業

今治市よりの受託事業 月～金（昼食）

29年度 558食

28年度 838食

27年度 443食

9. ケアハウス事業

ケアハウスせせらぎの平成29年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。（詳細な数字は末尾に表示）

1. 平成29年度稼働目標 部屋数26に対して、稼働率80%

【実績】

- ・稼働率80%の目標に対して、部屋数の稼働率は82.6%と目標に達することができた。
- ・入所申込者には体験入所を勧めスムーズに入所に繋げることができたが、入れ替わりが多く、定員に対しての目標達成には至らなかった。

2. 平成29年度重点項目

施設サービス計画に基づいた個別ケアを実施し、要介護者も安心して暮らせるよう支援を行います。

【実績】

- ・施設サービス計画に基づいた支援を行い、新たな問題発生時には随時関係者で検討し対応した。

3. 主な事業

① 健康管理に留意し、医療機関との連携を図る

【実績】

- ・食事摂取量や体重、血圧を測定し、変化があれば医療機関への報連相を行い迅速な対応を行った。

② 行政機関への手続きなど社会生活上の便宜の供与

【実績】

- ・ケアハウス事務職員を中心に対応できた。

③ 入所者が満足できる充実した食事の提供

【実績】

- ・行事食で味噌鍋や餃子など新たな献立を取り入れ大変好評だった。

④ 入所者同士がコミュニケーションを図れる環境作りや外出の機会を提供し、認知症予防を図る

【実績】

- ・茶話会の実施や外食ツアーを採用し、コミュニケーションが図れる環境や外出の機会を提供した。入所者同士の対人関係については、対応が困難な部分も多くあり課題が残った。

⑤ 地域との関わりの強化（富田総ぐるみこども見守り隊等）

【実績】

- ・月1回のこども見守り活動及び小中学校、各PTA、富田駐在所や富田地域の担当者が参加する総会・勉強会への出席、小学校での各種行事にできる限り参加し、地域関係者との関わりに努めた。

⑥ 入所者の確保（空き部屋の減少）

【実績】

- ・入所者の照会について、木原病院やさくら苑と連携の強化に努めるとともに、各地域包括支援センターや市内の居宅介護支援事業所への営業活動を行った。

⑦ 接遇・マナーの徹底を図る

【実績】

- ・接遇の基本やコミュニケーション力を学び、身に付いてきていることが現場で実践できたが、細部においておろそかになることがあった。

⑧ 他部署との連携を密にして、緊急時の対応の強化を図る

【実績】

- ・申し送りを徹底し、緊急時には迅速に対応することができた。

(1) 定員 30名 (1人部屋 22、2人部屋 4)

(2) 入居者 22名 男性 5名 女性 17名
単身者 22名 夫婦 0名

(3) 現入居者の入居年度

10~12年度	16~18年度	19~21年度	22~24年度	25~27年度	28年度	29年度	計
1名	1名	2名	1名	6名	5名	6名	22名

(4) 入居者の年齢

	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	計
男性	1	0	4	0	5
女性	0	5	7	5	17

	最低年齢	最高年齢	平均年齢
男性	68歳	87歳	81.2歳
女性	73歳	94歳	84.1歳
計	68歳	94歳	83.4歳

(5) 入退居者の状況（平成29年4月1日～30年3月31日）

入居者 11名 入居前の居所（自宅 7名 病院 3名 老健1名）
退居者 8名 退居理由（
 転居 3名
 老健 3名 介護付ケアハウス 1名
 長期入院 1名

(6) 現入居者の平均在所日数

29年度 1,474日（4年00月）
28年度 1,445日（3年11月）
27年度 1,812日（4年10月）

(7) 入居者の要介護度状況

未認定者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
1名	6名	2名	9名	3名	1名	—	—	22名

10. 居宅介護支援事業

指定居宅介護支援事業所みどりの郷の平成29年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。（詳細な数字は末尾に表示）

1. 平成29年度重点項目

住み慣れた地域で安心して在宅生活が維持できるよう、相談援助や介護予防も含めた居宅介護支援計画の作成を行います。

【実績】

- ・転倒・骨折や認知症により独居生活の継続に不安や心配を抱えた利用者には施設入所を提案し、それ以外は在宅生活の継続ができるように支援した。

2. 主な事業

- ① 適切なアセスメントを行い利用者のニーズを把握すると共に、介護者の健康状態にも配慮したサービス計画の提案を行う

【実績】

- ・家族の体調に合わせて、ショートステイでの受け入れを行った。

② 今治市の委託に基づき、公平な要介護認定を行う

【実績】

- ・公平な認定調査を行うことに努めた。

③ 各機関との連携を密にし、虐待や介護放棄等提供困難事例の早期発見、予防や対策を図りながら在宅生活維持につながる総合的な援助を行う

【実績】

- ・病院の医療ソーシャルワーカーと連携を図り、退院後の在宅生活が困難な利用者にサ高住で本人の望むサービスが受けられるよう援助を行った。

④ 本人や家族の意思及び人格を尊重し、可能な限り自立した生活を営むことができるように支援する

【実績】

- ・ヘルパーや職員が全て行うのではなく、声掛けにより一緒に片付けを行ったり、本人にできる部分はやっていただくよう支援した。

⑤ 併設事業所との連携を強化し安心とやすらぎのある生活を支援する

【実績】

- ・在宅生活の継続が困難になった利用者については、施設入所を支援した。

⑥ 提供されるサービスが特定の種類や特定のサービス事業所に偏ることがないように公正・中立の立場を保つ

【実績】

- ・利用者や家族の希望に沿うよう幾つかの事業所の中から選択していただくように提案を行った。

(1) 居宅介護サービス計画作成件数

29年度	337件
28年度	387件
27年度	333件

(2) 介護予防計画作成受託件数

29年度	12件
28年度	24件
27年度	52件

(3) 介護認定調査件数

	施設分	在宅分	計
29年度	28	25	53
28年度	43	29	72
27年度	36	30	66